

基地撤去をめざす 県央共闘

* ↑タイトル・題字募集中

NO. 6

2008.11.12

発行：原子力空母の母港化に反対し

基地のない神奈川をめざす県央共闘会議

〒242-0028 大和市桜森 3-5-3 フォント 1F

事務局連絡先 090-7402-5245

編集責任者 檜鼻達実

爆音が消えた－PF2008in 大和・綾瀬

9月25日、横須賀港に接岸した原子力空母G・Wが、韓国・釜山沖に出港予定であったことから、厚木基地への艦載機の飛来はごく僅かであった。やがてやってくるであろう嵐の前の静けさ。静かな空を返せと基地周辺住民が裁判に訴えたのは1976年。以来、改善されない爆音に訴訟が繰り返され、本年4月、4度目の提訴を7千名を越える原告で横浜地裁に起した。

沖縄の闘いに連帯し、更なる大衆行動で県央地域に密集する米軍基地の撤去に向けて、平和運動に取り組むために結成された略称「基地撤去をめざす県央会議」は、それ故に、労働組合と市民団体との共同戦線として、全国でもまれな組織として誕生した。



交流の場・学習の場

結成以来、厚木基地、キャンプ座間、相模総合補給廠の基地正面に、何度怒りの行動をぶつけてきたとか。折りしも、日米軍事再編のロードマップが明らかになり、これらの米軍基地が、戦場に直結する基地に変貌しようとしている。

こうした実態を訴えようとして開催されてきたピースフェス。2001年、約5千人で基地包囲に似せた大行動。この行動を原形に取り組みされてきた祭典は、今年で7回目（大行動から8回目）。この日、しばし握りこぶしとシュプレヒコールをしまい込んでの休息。笑顔が絶えない祭りを楽しんだ一日であった。

PF2009 に繋ぐために 思ったこと！感じたこと！

平和への思いを馳せる意義あるイベント

安本 博（自治労座間市職員組合）

座間市では、24 年続いた星野市政の幕が閉じ、新たな市長が選出された。長期政権となった前市長の評価は様々ではあるが、前市長にとって、最後の難題となったのがキャンプ座間の問題ではなかろうかと推測する。

キャンプ座間を取り巻く環境は、爆音が日常生活にいやおうなく入り込む直接的な原因になるわけでもなく、眼前に巨大な原子力空母の姿が飛び込んでくるといふ現実があるわけでもないばかりか、日米親善という形をとって盆踊り大会がつい最近まで開催されていたことを思えば、市と米軍との関係が感じとれるというものだ。

しかし、こうした平穏な状況は一変した。米陸軍第 1 軍団司令部のキャンプ座間への移駐が公表され、市民団体をはじめ労働組合などから反対の声が次々とあがったためだ。マスコミもまたこれに注目した。市としても黙っているわけにはいかず、ついに米陸軍第 1 軍団司令部移駐に伴う基地強化に反対する座間市連絡協議会が設立された。

「基地の整理、縮小、撤去」「基地機能強化反対」を掲げて、決起集会やデモ行進と平和運動団体さながらの行動を展開した。国もまた基地再編交付金の交付対象から座間市をはずすなど制裁策を講じてきた。それでも座間市は基地恒久化解消策の提示を求めて、国に對抗した。そうした状況がテレビ・新聞をとおして流されるたびに話題性は確かに高まった。

緊迫した情勢は、市長任期の終了のタイミングを測るかのようになり、事態は終息の方向に向かった。はたして運動の意義はなんだったのかと考えてしまう。フェンス 1 枚隔てた向こう側は軍事施設である。今まで静かだったこの施設が、よもや私たちの平和な生活を脅かすことになるとは思っていなかったことと思う。

ピースフェスティバル 2008IN 大和・綾瀬が開催された。平和への思いを馳せるいい機会となるイベントとして意義あるものと思う。まずは横須賀、大和、綾瀬、座間、そして相模原へと連帯した行動に地道に参画し続けたい。

単組内で家族も含めて広がってきた

太田 和利（相模鉄道労働組合）

反戦、反基地、平和に向けた取り組みを目的に行なわれたピースフェスティバルも今回で 8 回目を迎えました。私たちの単組でもこの取り組みは回を増す毎に組合員の参加者が増え認知度を高めています。特に本年は、家族連れの参加者が多かったことが特徴と言えます。これは、第三次厚木基地爆音訴訟で「米海軍厚木基地の爆音は違法状態にある」として勝訴し、そして現在は、飛行差止めを求める第四次訴訟が行なわれているこの運動が単組内で家族も含めて広がってきたことを意味していると思います。

当日は、焼鳥、焼きそば等たくさんの模擬店が軒を連ね、ステージではジャズ、和太鼓、津軽三味線等多彩な催しが行なわれ楽しい一日を過ごすことができました。また、展示コーナーでは、厚木爆同の約半世紀にわたる運動の歴史が展示されており、その運動の継続こそが力となり、司法判断で 3 回にわたり爆音は違法と言わしめたのだと思いました。しかし、違法と判断されたにも関わらず未だに爆音が止むことはありません。そればかりか、キャンプ座間への米陸軍第一軍団司令部設置や横田基地への航空総司令部移転、横須賀原子力空母母港化、武山駐屯地への MD システム配備など基地の機能強化をおしすすめようとしています。これは、住民不在、住民無視・民主主義破壊の恥ずべき行為です。こうした中、非核三原則を無視して横須賀に原子力空母「ジョージ・ワシントン」が強行配備されました。これにより、地域住民はもとよりアジア各国の脅威となっています。私たちは、軍事力に頼らない、武器に頼らない、アジアの平和と静かな空を取り戻すため、さらに運動を継続、発展させていかなければならないと思いました。

親から子へ伝える平和の大切さ

表木 誕（湘北教職員組合）

湘北教組では、市民にアピールすることを目的として、昨年度「ピースフラッグ」の制作に取り組みました。参加者に平和への願いや思いを寄せ書きしてもらった「ピースフラッグ」は、今でも様々な動員や集会・デモ行進には欠かせないものとなっています。

今年度は、「平和をより身近なところから考えよう」というテーマのもと、「神奈川にある米軍基地」を紹介する地図を作成しました。県内には 15 ヲ所の大きな米軍基地があり、それぞれの説明を子どもにも分かるよう表し、その中からクイズを作りました。クイズに参加した子どもたちは、ご褒美のたこ焼きを楽しみなが

ら、熱心に取り組みました。また、地図の前で、父親が子どもに基地のことを伝える姿も見られ、その後一緒にクイズに取り組んでいました。親から子へ平和の大切さや知識を伝える良い機会になったことと思います。

湘北教組では平和コーナーと同時に模擬店も出店し、たこ焼きとお好み焼きを販売し、大盛況の中、店を閉めることができました。

決して平和であるといいきれない時代ではありますが、このピースフェスティバルでたくさんの子どもの真剣な眼差しと笑顔を見ると、未来を担う子どもたちが平和に少しでも目をむけていくことができるようにすることが、我々おとなの責務であると感じました。

PF の趣旨をもっとアピールしたい

齋藤 英昭（第四次厚木爆音訴訟団）

今回で 7 回目を迎えた「ピースフェスティバル」に参加して、自分なりの感じたことを述べさせていただきます。

まずは、企画・運営に当てられた実行委員会の方々のご努力に対して、深く敬意と感謝の気持ちを表します。

感激したのは、「ピースコンサート」のプログラムです。一般の方々に惹きつけ、大勢の通行人が足を止め演奏に聞き入り、心から楽しんでいた光景です。特に「創作和太鼓・打鼓音」の迫力ある演奏と「津軽三味線」は、会場の雰囲気大いに盛り上げたと思います。模擬店も、出店（展）内容が多岐にわたり一般参加者の方々を含め大いに楽しんで買い物をしていましたようです。

今回参加して「こういうようなことが出来れば…」と思ったことを述べますと「ピースフェスティバル」の趣旨を大きくアピールするような企画と会場の飾りつけが欲しかった。①「ピースコンサート」の舞台に「アピールを表現した横断幕等」のデコレーション②「パネル・模型等」に説明動員の配置など。

県央地区の米軍基地の概要と周辺地域に及ぼしている被害をアピールしたら、①「街頭リレートーク」②基地を紹介した「小冊子」または「パンフレット」等を配布してPR③「後援自治体、教育委員会、商工会議所」にも出店・参加を促す④「ピースコンサート」の出演者に「トーク」でPRしてもらおう*主催当事者がステージでスピーチを行なうと、参加者がソッポを向くなどです。可能な項目を次回以降の企画でご検討下されば幸いです。改めて“御苦労さまでした”。



多くの人と一緒に楽しみたい

青木 裕美（バスストップから基地ストップの会）

ピースフェスティバルに参加するのは去年に続いて二度目である。今回は模擬店を開いたこともあって、いろいろな人と話しながら楽しめた。コンサートも素晴らしくみんなでひとつになれた。若返ったひと時だった。

駅のすぐ横のたくさんの人が通る公園で、市や商工会議所の後援も受けながらこのようなフェスティバルが持てることは本当に素晴らしい。パネルに見入ったり署名に協力している方も多かった。ふだん関心がなくてもちょっとしたぞいてみる事ができる場合は、今特に大切だと思う。このようなイベントが持てるのも厚木爆同の方たちを中心とする長い地道な闘いがあったからこそだろう。パネルを見て改めてそのことを強く感じた。

心配された雨もほんのひとときでやみ、みんなの願いが通じたようだった。来年もまたみんなで集まって、もっと多くの人と一緒に楽しみたい。

良かった様々な世代の参加

武志富美枝（大和の空を考える市民ネットワーク）

今年は、時折小雨のぱらつく生憎の空模様でしたが、ステージの演奏に耳を傾けたり、模擬店に立ち寄ったり、パネルに見入ったりする市民の方が多かったように思いました。

ステージ企画も楽しかったようで、津軽三味線の演奏は何時からですかと聞かれたり、太鼓の演奏等にも足を止めて聞き入る市民の方が多かったのも印象的でした。また、高校生の平和大使のアピール等、様々な世代の参加があって良かったです。

大和の空では今年は「たこやき」の模擬店を出店すると共に、来年1月に実施予定の「基地めぐりツアー」の案内チラシを配布することができました。売れ行きを心配した「たこやき」は、早々に売りつくしてしまったので、次回は食数を増やしたいと思っています。

大和駅前プロムナードでのピースフェスティバルは、定着してきたようで嬉しいです。

平和への第一歩はまず行動

小川 秀代（WE21 ジャパン）

現在神奈川県内に54店舗の「WEショップ」があり、それぞれを35のWE21地域NPOが運営しています。大和には桜ヶ丘駅前に「WEショップやまと店」があり、運営主体のNPO法人WE21 ジャパン大和では、

品物の寄付やボランティア参加などおおぜいの地域の皆さんに支えられて、資源を地域で循環しながらその収益でアジアの人たちを支援する海外支援事業を展開しています。

今回のピースフェスタには、WE21 やまとの協力のもと、本部のWE21 ジャパンが中心となって初めて参加し、全国からWE21へ寄せられる寄付品を中心に販売させていただきました。小雨模様の天気にもかかわらず、主催者の熱気溢れるメッセージや多彩なミュージシャンの演奏に酔いしれ、平和であることの大切さを感じました。参加団体の皆さんは、小さな子どもたちから若者、高齢者まで老若男女にわたり、それぞれが平和への問題提起をしながらお祭りを楽しんでいる様子に、日頃からの連携の良さが感じられ、平和への第一歩はまず行動することだと実感した一日でした。

手作りカレーと写真展示で大成功

西村 綾子（婦人民主クラブ相模原支部）

雨の心配も消えた好天の下で、今年のピースフェスティバル in 大和・綾瀬は、人出もまずまず、爆音のこと核空母のことなど、市民へのアピールに有意義な一日だったと思います。

沖縄の三味線演奏は、すばらしくて“来て良かった！”と参加した人が感激して話しています。

私たち婦人民主クラブ相模原支部は例年どおり、スマートボールと手作りカレーを出店。カレーは完売。少々ハプニングがあって数はいきませんでした。喜んでいただけましたようです。子ども向けのスマートボールはいつも盛況ですが、近くに基地の模型やパネル展示があり、子どもがゲームを楽しんでいる間、お父さんお母さんがパネル等を見ているという光景もあり、良かったと思っています。隣のテントの百万人署名運動は、世界各地の労働者のストライキやデモの写真を約60枚展示。テントの裏表が通路でしたので、よく見てもらえて大成功だったと思います。

世界の軍事費を一円玉で表現

小山 幸恵（エコアクションかながわ）

今年もブース参加させて頂いた。みるみるうちに、活気溢れるステージイベントに人々が吸い寄せられ、巨大な厚木基地・キャンプ座間の模型やパネル展示に熱心に見入っていく姿を見ることができた。あったかい手作り料理、心地よい音楽、そのリラックスした雰囲気の中で、この街に広々と横たわる米軍基地の存在、

そういえば胸の底にあったような違和感を、真っ正面から呼び起こされる——そんな、本当に意味のある空間を作りだしていることを実感した。

私たちのブースでは、世界の軍事費 1 兆 2,000 億 \$ を、1 万 2,000 枚の 1 円玉（1 億 \$ = 1 円換算）で表現する展示を用意。世界で支出される戦争費用（6 割強は米国！）の巨大さ、それに比し国連ミレニアム開発目標（MDGs）などが掲げる、世界の平和・貧困・環境破壊の手当のため必要とされる費用の、いかに微々たるものかを表現した。幸い、多くの人々に関心を寄せて頂いた。来年も「平和と静かな空を！」のメッセージをさらに多くの人々の胸に届けるイベントとなることを期待したい。もしできることなら、この文字を大きく掲げたステージだったらいい…と思うのですがー。

基地を考える住民のための祭り

大窪智恵子（県央コミュニティ・ユニオン）

「ピースフェスティバル」今年も大和駅前にたくさんのテントが並んだ。私たち大和や相模原周辺住民にとっては、毎日繰り返される騒音に悩まされている。今日は、みんなで基地のことを考えようと、恒例行事となった住民のためのお祭りだ。

県央ユニオンは、一人でも入れる労働組合。今日 1 日は、平和とお祭りを楽しむ日として、毎年参加している。

7 年目を迎え、年々市民参加型のお祭りになって、楽しみにしている人もいるだろう。和太鼓や、ジャズ、津軽三味線、沖縄島唄のコラボも、ここではジャスト・マッチング。ステージと観客、出店者たちも一緒に歌ったり、踊ったり参加できる、一体型のステキなお祭り！

出店メニューも、それぞれ個性いっぱい、お腹も満足、幸せ指数 120%。

これからも続けていきたい、平和な静かな日々を取り戻すために。

「沖縄物産」で市民交流

大塚 真一（略称「沖縄の会」）

「沖縄の会」は、1985 年 5 月の沖縄平和行進に川崎市職労の反戦・平和の運動方針に基づき、初めて参加した時から、毎年組合員が「基地の島沖縄」の実態を平和行進を通して学んできました。その中から、川崎に居てもできる平和運動をやろうと「柔らか頭で、楽しく」を目標に、沖縄平和ツアーや学集会、そして今回のような沖縄物産の紹介と販売を続けています。



今回のPFでは、沖縄物産の紹介・販売の中で、市民の方から「沖縄から来られたんですか、大変ですね」「これはどこで買えるんですか」「沖縄焼きそばは普通の焼きそばとどう違うんですか」「この前沖縄に旅行に行ってきた楽しかったです、懐かしい！」等の声を掛けていただき色々な話をし、交流することができました。そんな意味では「沖縄の会」の目標は達成できたと思っています。

美しく自然が一杯の小さな島・沖縄に、野蛮な米軍基地の殆どを押し付けている本土の私たちは、一日も早く平和な島・沖縄が実質的に返還されるまで運動をしなければならないと思っています。そして、第二の基地県神奈川の運動を盛り上げる為にも「沖縄の会」の運動を継続していきたいと思っています。

有益な反省材料が3点

矢野 亮（厚木基地を考える会）

今年は、例年通り、「すべての基地に NO を！ファイト・神奈川」としてコーヒーとホットサンドを提供しました。（ホットサンドは今年初）おかげさまで、コーヒー100杯、ホットサンド45食売り切ることができました。そこで感じたことが以下の3点。これは、来年のために実に有益な反省材料だ。

☆Tの縦にUを。

T字型の会場で、上の横棒の往来は多かったようですが、盛り上がるためには、縦のロードに入ってきてUの字を書くように、対流する人の波ができることが必要です。つまり、このTのどん詰まりに、目玉商品がほしい。華がほしい。おっ、花屋はどうかね？誰か？

☆イレクルの法則

コーヒーは、一人分作るよりも多量に作る方が、粉を節約できます。しかも、そのほうがおいしく作れるようです。一人分だとなんか薄いような気がするのです。

だから、なるべく集団で来てほしいんですが、これがぼつぼつと来るんですね。注文があって淹れるというポリシーですから、一人来ると淹れる。お湯を注ぎ始めるともう一人来る。ああ、もう少し待てば良かったということになる。これを淹れたら来るから「イレクルの法則」と言います。

☆ホットサンドの耳は付けるか？

これは世論調査をする価値があるかもしれませんが、圧倒的に耳付き派が多かったのです。私は耳なし派です。なぜならば、ホットサンドメーカーからはみ出すから。しかも、このようなお祭りの場合は、耳まで食べるとおなかいっぱいになって、他の物が食べられない

くなる。

ハムとチーズの2種類を用意したのですが、意外にもチーズの大勝利。これは、直前に伊藤ハムのトルエン騒動があったからか？

気持ちの良い汗をかく

深沢 一夫（略称「沖縄講座」）

私たち沖縄講座は、いつものようにスペースオルタの佐藤さんの指示の下で、舞台準備と片付けを中心に気持ちの良い汗をかかせていただきました。ステージは、洋楽あり、和太鼓あり、津軽三味線あり、沖縄民謡ありでいつも以上にバラエティに富んで、観客のノリも良く、十分楽しめる舞台だったと思います。

さて、沖縄講座は、沖縄・一坪反戦地主会・関東ブロックからの要請があり、「7. 18 沖縄県議会決議を尊重し、辺野古新基地建設の断念を求める請願署名」を会場で取り組みました。ヘリ基地反対協・共同代表の安次富浩さんから9月の横須賀闘争の折りにお預かりした辺野古問題をわかりやすく解説した最新のカラーリーフレットが役に立ちました。いつものように写真パネル展示でも、東村高江の米軍ヘリパッド問題と併せて、辺野古の問題を訴えました。私たちの集めた署名は100名弱でしたが、同じ署名を他の団体も会場で集めており、全体ではかなりの数を集めることができたと思います。ぜひみなさんの職場や地域でも取り組んでいただければと思います。HPから署名をダウンロードできます。

http://www.jca.apc.org/HHK/NoNewBases/08NNB/henoko_petition_2008.html

終わらせなければならぬ戦争の文化

佐藤 真起（スペース・オルタ）

巨大な米軍事基地側での「平和のまつり」、ピーフェス。地元でも認知されてきたようだ。特設ステージ前のイスには終日ビッシリの人。午後にはイスの後ろに幾重もの人垣が作られた。ところで、軍事基地が巨大なのは面積ばかりではない。文明への影響力も巨大である。英国のNGOの試算では、環境、貧困、食糧、衛生・医療、教育などの諸問題に、世界が年間で浪費する軍事費の30%を当て施策を続ければ、ほとんどが解決できるという。（ピースデポHP、核実験モニター130-1号に掲載）

いつかは終わらせなければならぬ戦争の文化。その巨大さに向き合って、なけなしの知恵とエネルギーと財とネットワークを寄せ合い、平和の文化を市民が作ろうとする。その志しが天に通じたのか。予報を覆す

各地豪雨の中、パラつく小雨に、高価な津軽三味線に傘を人がさしかけ、ステージは持ちこたえた。戦争の暴力に向き合うにふさわしい、手作りの微笑まじさが漂う、ほのぼのとした光景ではなかったか。

二つのピー・フェス

加藤 泉（神奈川平和運動センター）

2008 年秋、二つの「ピース・フェスティバル」に参加した。楽しかった。

10 月 19 日（日）「第 23 回よこすかピース・フェスティバル」は充実していた。9 月 25 日午前に原子力空母ジョージ・ワシントンが強行配備された後、最初の大規模なイベントとなり、メイン・テーマも「原子力空母の危険性」とした。

長いピー・フェスの歴史の中で作製されてきた横須賀基地や原子力潜水艦などの模型や反基地闘争の歴史などのパネル展示の存在は大きい。最新の「ジョージ・ワシントンの火災事故」も沢山の人が食い入っていた。

模型づくりやセッティングでの全造船労組の役割が大きい。飲食の模擬店も多彩だ。

10 月 26 日（日）「ピース・フェスティバル in 大和・綾瀬 2008」は曇り空だったが、沢山の人でにぎわった。何よりもステージ前の客席がいつもほとんど一杯だったのが特徴。出演者が横須賀はアマチュア中心だが、こちらはプロが目立った。集客力があるのは当然だが、地元のグループがもっと欲しかった。

展示も活動の歴史などだが、周辺米軍基地の役割や変化のパネルがもっと欲しい。模擬店もバラエティがあれば。

双方のピー・フェスとも、日ごろから基地強化反対など具体的運動を通年でたたかいながら、一年の集大成的イベントを続けることがすごい。来年もまた楽しみだ。

いつかお祝のピーフェスを

新倉裕史（非核市民宣言運動・ヨコスカ）

横須賀のピースフェスティバルに、NLP 爆音体験コーナーが登場したのは 1990 年の第 5 回開催で、ミッドウェイが爆発火災事故を起し、インディペンデンスへの交代が発表された年でした。空母は横須賀を母港とするが、厚木基地にこそ母港のリアリティーがある。そのリアリティーをピーフェスで再現しよう、というアイデアでした。

まわりを囲ったテントの中で NLP 訓練のビデオを大型テレビで再生し、スピーカーから出てくる音を、街

頭宣伝用のラウドスピーカーでさらに大きくします。100 ホーンを超える「爆音」を作り出すことには成功しましたが、胸を圧迫するあの衝撃は作りだせません。それでも参加者の関心は高く、以後、今日までピーフェスの目玉展示のひとつとして続いています。

しばらくして問題が起きました。あまりのうるさに、周辺の模擬店から商売にならないという、苦情が出てきたのです。これが母港の現状なんだから理解して、とはいうものの、たしかにうるさいことはうるさい。そこで登場したのが、厚木基地の模型です。艦載機の飛行訓練コースもつけたベニヤ 3 枚の大型模型の登場で、ビデオだけにたよらずに、立体的な体験ができるようになりました。音量を絞っても、集まったお客さんには模型で説明ができるのです。解説は毎年、「厚木基地を考える会」の皆さんが駆けつけてくれます。

今年は、3 周連続で厚木基地模型が活躍しました。10 月 19 日が横須賀のピーフェス。26 日が大和のピーフェス。さらに次の週、11 月 2 日は、横浜スタジアム脇で 9 条神奈川の会のお祭りにも登場。どの会場でも多くのみなさんが足を止めてくれました。

厚木基地模型の制作は全造船浦賀分会のみなさん。横須賀基地の 100 分の一の立体模型、トマホークの実物大模型、機関車トーマス、原潜の断面模型等々、ピーフェスの展示物の多くを手がけてきました。すでに地域の風物詩となっている、大和と横須賀のピースフェスティバル。いつの日か、空母の配備を止めさせることができたとき、大和と横須賀で同じ日に、お祝のピーフェスが開催できたらいいですね。これからも、よろしくお願いします。



厚木基地の模型に人だかり！！

11月2日、横浜公園（横浜スタジアム横）に現れた厚木基地、キャンプ座間、相模総合補給廠を形どった模型に、たちまちのうちに人だかりが出来た。この日、県内各地で生まれた「憲法9条を守れ」の運動体が実行委員会をつくり、「みんな集まれ！9条まつり」と題して催されたイベントに、事務局長岡部弁護士のたつての要請もあり、非核市民宣言運動・ヨコスカの新倉さんと協議して、先の模型を出展した。3週連続のお披露目となった。これらの模型は、どの会場でも人目を引いた。この日もヨコスカ平和船団団長の鈴木繁樹さんの説明に熱心に聴き入っていた。米軍基地の実態について、日常生活では感じることも知らないことも多い横浜市民に、少しは分かってもらえたのでは。原子力空母の危険性を表したパネルも展示し、空母母港化の問題点をアピールした。（檜鼻）



第一軍団前方司令部移駐から一年

(仮) この街から戦争に行くな！12.20座間集会

日時 **12月20日(土) 午後1時30分～**

会場 **相武台1丁目公園**

(小田急線相武台駅北口から徒歩7分)

この集会を成功させるため、神奈川平和運動センター、基地撤去をめざす県央共闘、第一軍団を歓迎しない会等と共催を検討しています。呼びかけは、バスストップから基地ストップの会です。

当 面 の 行 動 予 定

- 11月22日(土) 第9回非核平和条例を考える全国集会 in 金沢(～23日：石川県文教会館)
- 11月24日(月) 日米合同軍事演習に反対する11.24練馬現地集会(14時～区立大泉公園)
- 12月10日(水) 第四次厚木爆音訴訟第4回口頭弁論(10時～横浜地裁101号法廷)
- 12月13日(土) 第3回米軍再編・基地強化を闘う全国連絡会(～14日：波止場会館)
- 12月20日(土) (仮) この街から戦争に行くな！12.20座間集会(13:30～相武台1丁目公園)**